

## 危険な場所は子どもたちが知っている



通学路の危険箇所の把握状況について



子どもたちの目線で

るもある。子どもたちの登下校時に一緒に歩いていただくような考えはあるか。

**教育部長**

子どもたちを同行させることは安全面からも難しいと思う。

**議員**

地域の大人またはボランティアで子どもたちを見守る「見守り隊」について市はどの程度把握しているか。

**教育部長**

見守り隊が組織されている学校がほとんどであるが、まだ組織されていない学校が3校ある。

**議員**

多くの方の協力を得て組織できる方向で進めていただきたい。現在、行政防災無線で子どもたちの下校時に見守りを依頼する放送がされているが、大人からの語りかけではなく、子どもたちが自らの声で呼びかけるといった放送にはどうか。

**教育部長**

早い時期に実現できるように各学校との調整を図っている。

**議員**

同じ声では耳が慣れてしまう。いろいろ変化をつけることで、みんなが意識を向ける方法を考えてもいいかと思う。

**議員**

点検は大人だけで行われているのが現状である。大人ではどうしても気づかないようなところ

**議員**

通学路の危険箇所の把握方法及び手順について伺う。

**教育部長**

毎年、年度当初に各学校に通学路改善要望調査を依頼し、各学校からの報告をもとに危険箇所を把握している。昨年度からは常総市通学路安全プログラムを策定し、学校・PTA・警察等の連携のもと合同点検を実施して危険箇所を把握している。



働き方の問題について

## 保育士の正規職員率アップを!!

**議員**

市役所の正規職員が減り、非正規職員がふえている。正規職員と同じように働いていながら正規職員ではない方（非正規職員）はどこに多く配置されているのか。

**総務部長**

特に保育所に多いと思う。

**議員**

常総市の子育てを担う保育士の仕事は本当に重要である。安心して産み育てながら働くことができる、すべての市民と子どもたちに開かれた公立保育所を充実させることは必要不可欠である。常総市の子どもなのだから、市が責任を持って公立保育所を設立し、若い父母を支えていく体制が今こそ必要ではないかと思う。正規の保育士として働きたいという方はたくさんいる。正規職員と同じように子どもにかかわって、子育てのノウハウも身につけた方々なのだから、正規職員として誇りを持って働けるよう、3年くらいをめどに正規職員にすべきではない

**議員**

か。地方公務員法で採用試験を経なければ任用できないことになっている。

**総務部長**

次に、小中学校の先生方の超過勤務について、超過勤務を減少させる具体的方法はあるか。

**議員**

タイムカードや定時退勤日を設けたり、コンピュータの活用による事務処理の軽減を図ったりする学校もある。

**議員**

やはり人手をふやす以外にはいいのではないか。まず人をふやすこと、それからノー残業デーの徹底、中学校の先生であればノー部活デー等が必要かと思う。

関 優嗣 議員

石川 栄子 議員

